

## 2. 火山の概況

(平成17年2月17日～平成17年2月23日)

雌阿寒岳、十勝岳及び樽前山では、噴煙の状況に変化はなく、火口の高温状態が続いていたと推定される。

浅間山では、山体の膨張を示す傾斜変化が観測され、地震活動が一時活発になった。火山活動度レベル（以下レベルと記載）は3。

三宅島では噴煙活動が継続した。

阿蘇山では熱的な活動のやや活発な状態が続いた。レベルは2。

霧島山では御鉢の噴気活動がやや活発であった。御鉢のレベルは2、新燃岳のレベルは1。

口永良部島では地震がやや多く発生した。レベルは2。

諏訪之瀬島では噴火が発生した。レベルは3。

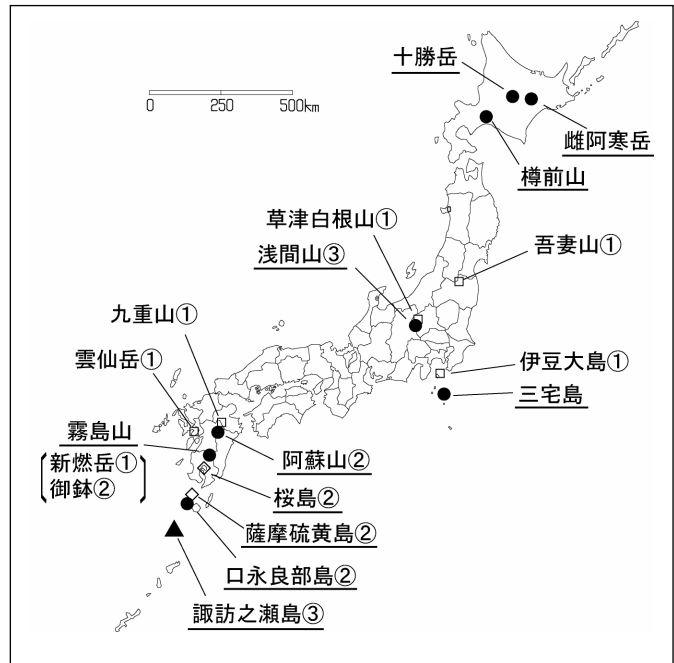


図1 各火山の今期間の火山活動度レベル及び記事を掲載した火山（火山名に下線）

号	対象期間	雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆大島	三宅島	福徳岡ノ場	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
8	2/17-2/23	●	●	●			●	●				●	●	◇	◇	●	●	▲
7	2/10-2/16	●	●	●			●	●				●	●	◇	◇	●	●	◇
6	2/3-2/9	●	●	●			●	●				●	●	◇	◇	●	●	◇
5	1/27-2/2	●	●	●	◇	◇	●	●	●	◇		●	●	◇	◇	●	●	▲
4	1/20-1/26	●	●	●			●	◇	●			●	◇	●	▲		●	◇

号	吾妻山	草津白根山	浅間山	伊豆大島	九重山	阿蘇山	雲仙岳	霧島山(新燃岳)	霧島山(御鉢)	桜島	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
8	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
7	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
6	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
5	①	①	③	①	①	②	①	①	②	②	②	②	③
4			③	①		②	①			②			

表1 最近1か月に記事を掲載した火山（左）及び各火山のレベル

### 注1 記号の意味

- ▲：噴火した火山      ●：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山
- ◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山      ◇：その他記事を掲載した火山
- ：記事を掲載していないレベル対象火山      ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2 記事は、▲、●及び◆（注1参照）に該当する火山及びレベル2以上の火山について掲載する。その他の火山については、特記事項のある場合に掲載する。

注3 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

### ● 雌阿寒岳 [熱]

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

### ● 十勝岳 [噴煙・熱]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる噴煙の高さは火口縁上おおむね 200mで推移した。

## ● 樽前山 [熱]

A火口およびB噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

## ● 浅間山 [地殻変動・噴煙・火映・地震・微動] レベル3 (山頂火口で小～中噴火の可能性)

今期間、噴火は観測されなかった。

山腹に設置した傾斜計による観測で、21日17時頃から山体直下が膨らむ傾向の変化がみられ、同日22時頃からは火山性地震も増加したが、22日22時頃から傾斜計の傾向は反転して山体直下が縮む傾向の変化に変わり、23日01時以降は火山性地震も少なくなって、ほぼ21日以前の状態に戻った。昨年9月及び11月に発生した中爆発においては、同様の傾斜変化及び地震活動の活発化の後に噴火が発生したが、今回は噴火の発生はなく、噴煙活動にも特に変化は見られなかった。

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約300mまで上がった。火映が18日及び20日に山麓の高感度カメラで観測された。

火山性地震は、前述の活動に伴って22日に175回とやや多く発生したが、その他の日は1日当たり38～77回で推移した。火山性微動は1日当たり0～2回観測された。

## ● 三宅島 [噴煙]

白色噴煙は山頂火口より連続して噴出しており、最高で火口縁上約300mまで上がった。火山性地震は1日あたり0～12回と少ない状態であった。

## ● 阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動] レベル2 (やや活発な火山活動)

23日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、量は約4割で、表面温度は73℃と高い状態であった(前期間は71℃)。湯量は減少傾向にあり、湯だまりの中央部付近と西側で高さ約2～3m、南西側で高さ約1～2mの土砂噴出が観測された。

噴煙は白色で噴煙の高さの最高は火口縁上約300m(前期間500m)であった。

孤立型微動の発生回数は365回であった(前期間は435回)。火山性微動の発生はなかった(前期間もなし)。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

## ● 霧島山 [噴気] 御鉢：レベル2 (やや活発な火山活動) ・新燃岳：レベル1 (静穏な火山活動)

御鉢火口の噴気活動はやや活発で、17日、20～21日及び23日に時々噴気が監視カメラで観測され、高さの最高は火口縁上約100mであった。

## ◇ 桜島 レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火はなかった(前期間もなし)。噴煙活動も低調で、鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)で降灰は観測されなかった(前期間もなし)。

## ◇ 薩摩硫黄島 レベル2 (やや活発な火山活動)

地震活動、噴煙活動等の観測データには特段の変化はなかった。

## ● 口永良部島 [地震・微動] レベル2 (やや活発な火山活動)

火山性地震は、日回数に増減があるものの今期間もやや多い状態が続き、期間中の回数は41回であった(前期間は82回)。火山性微動は、継続時間の短いものが時々発生し、期間中の回数は8回であった(前期間は16回)。監視カメラ(新岳の北西約4kmに設置)による観測では、新岳及び古岳の噴気活動に変化はなかった。

## ▲ 諏訪之瀬島 [噴火・降灰] レベル3 (小規模な噴火が発生かその可能性)

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、21日及び22日にごく少量の火山灰を含む噴煙が火口縁上約400mに上がっているのが確認され、23日に中量の火山灰を含む噴煙が同約600mに上がっているのが確認された。また、22日には、集落(御岳の南南西約4km)で少量の降灰があった。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第48号 ↓ (1日1回発表) 火山観測情報第52号	17日 16:00 ↓ 21日 16:00	前日及び当日00時～15時の活動状況(噴火はなし、噴煙・火映・鳴動・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想)。レベルは3。
	火山観測情報第53号	22日 09:00	21日17時頃から22日01時頃にかけて、傾斜計にわずかな山上がり変化が見られ、21日22時以降、地震回数がやや増加。レベルは3。
	火山観測情報第54号	22日 16:00	22日08時以降再び傾斜計にわずかな山上がりの変化が見られている。地震回数やや多い状態継続。レベルは3。
	火山観測情報第55号	23日 09:00	21日17時頃から見られた山上がりの傾斜計の変化は、22日22時頃から山下がりの変化に変わり、ほぼ以前の状態に戻った。地震の発生回数も、23日01時以降少なくなった。レベルは3。
	火山観測情報第56号	23日 16:00	前日及び当日00時～15時の活動状況(噴火はなし、噴煙・火映・鳴動・地震・微動・地殻変動の状況及び上空の風の予想)。レベルは3。
	火山観測情報第57号	23日 17:30	第100回火山噴火予知連絡会の浅間山の火山活動に関する統一見解。レベルは3。
三宅島	火山観測情報第92号 ↓ (1日2回発表) 火山観測情報第105号	17日 09:30 ↓ 23日 16:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	火山観測情報第106号	23日 17:30	第100回火山噴火予知連絡会の三宅島に関する火山活動評価
阿蘇山	火山観測情報第7号	18日 11:00	火山活動は引き続きやや活発(湯だまりの表面温度高い、小規模な土砂噴出発生、地震やや多い)。レベルは2。
口永良部島	火山観測情報第9号	18日 14:00	やや活発な火山活動継続。レベルは2。